

令和元年度（2019年度）第3回常任委員会議事要旨（案）

日時	令和元年（2019年）9月30日（月）午後6時から午後7時
場所	県民総合運動公園陸上競技場内2階会議室
出席者	山本・齋藤・住吉・山田・西島・内山（理事6名） 橋垣（オブザーバー1名）永田・太田黒（事務局2名）
会 議 内 容	
1	開 会
2	あいさつ
3	議長選出 議長：齋藤理事長
4	報 告
	<p>(1) SCS 研修会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月24日に大津町で実施した研修会について北ブロック山田理事から報告。 総合型クラブの登録・認証制度について、前向きに考えていただけるきっかけになればよい。 ・ 総合型クラブの登録・認証制度について、アドバイザーがクラブヒアリングの中で説明をしているが、理解しているクラブとそうでないクラブがあると感じた。 ・ 評議員会で説明をしているが、会長クラスの参加が多い。しかし、研修会は実務をしている事務局等の参加者が多かった。しかしながら「初めて聞いた」という反応が多く見受けられたため、各クラブが理解しやすいような資料があるといい。 ・ 事務局から、今後更なる理解促進のための勉強会等を開催できればいいのではないかと提案。 ・ 齋藤理事長から、常任幹事会での議論の中で、来年度末までに創り上げることが果たしてできるのかという意見が出ていたことについて報告。中間支援組織と登録・認証制度を一緒に考えていかなければいけないという意見もあり、全国ではこの登録・認証制度の導入について賛同しないという文書を正式に出すと言っているところもあり、理解度が低いまま登録・認証制度の運用が始まると、空中分解しかねないという意見も出ているとのことだった。 <p>(2) 第9回県内クラブ交流大会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局より、参加意向調査を行ったところ、現在18クラブの参加意向である旨報告。 ・ 参加申込締切を9月27日（金）としていたが、10月11日（金）に延長し、10月19日（土）に第2回実行委員会を開催する旨報告。 <p>(3) 九州ブロッククラブネットワークアクション2019inみやぎきの開催について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11月9日（土）～10日（日）に宮崎県で行われるネットワークアクションについて説明。 ・ 意向調査では、本県から35名程度の参加予定である。 ・ 研修事業としてバスを出す予定であったが、意向調査では希望者が7名程度と少ないため、近隣クラブ等との乗り合わせで参加いただく方向でお願いできればということで提案。決定。 ・ 昨年度の反省からの改善点として、要項に事業実施協力金の振込先が明記されている。 ・ 各クラブで周知をお願いしたい旨説明。 <p>(4) 2019年度スポーツ庁委託事業 スポーツ活動支援事業（総合型クラブの質的充実に向けた支援推進事業）県版プロジェクト、連携・協働体制構築プロジェクト委員への就任について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間支援組織の整備に向けた連携の見える化をはかるため、スポーツ庁から日本スポーツ協会に委託され、再委託先として熊本県体育協会が受託することとなった旨報告。 ・ 事務局より、本協議会から齋藤理事長にプロジェクト委員として就任いただいた旨報告。 ・ クラブ関係者として、龍田地域なかよしスポーツクラブから西島理事、NPO 法人クラブおおづから齋藤ゼネラルマネジャーに就任いただいている旨併せて報告。

・内山理事より、熊本市はスポーツ振興課と教育委員会の連携がなされていないため、情報が共有されていないと述べられた。

・齋藤理事長は、登録・認証制度があるから「何か受けれる」というクラブのスタンスではなく、クラブ自身が努力していくことが求められるという認識が必要と説明。

5 議 事

(1) 令和2年度（2020年度）事業計画及び予算について

・本協議会の体制及び事業について説明。

・次年度事業について意見聴取。

—協議の結果—

・会議事業、研修会事業についてはこれまでどおり次年度も実施する。研修会事業は次年度は南ブロックが担当ブロックとなる。

・復興事業は今年度までで終了する。

・県内クラブ交流大会については、これまでの体制からプロジェクトスタッフと理事を中心に進める形に変更して企画・運営する旨確認。

・総合型クラブのPRと子どもたちの交流の場の設定を目的に、次年度はイトメンの売上を活用して事業を行う。内容はプロジェクトで企画検討する。

(2) 令和2・3年度役員選出について

・役員改選について、次期役員の検討について各ブロックで進めていただくよう説明。

—協議の結果—

・北、中央、南から4名ずつ、体協、学識から2名ずつで依頼をする。

・SC全国ネットワーク常任幹事枠として齋藤理事長は時期任期も残留する。

(3) 復興支援金の支出状況及び残金の使途について

・復興支援金残金約35万円は年度内に支出する。

—協議の結果—

・第9回県内クラブ交流大会及び復興とクラブの登録・認証制度を絡めた勉強会に活用する。

・勉強会は今年度中に行う。

(4) イトメン収入及び今後の予定について

・事務局より、夏季の売上について報告。次年度の事業費として活用する旨説明。

・冬季はちゃんぽんうどん等について情報提供があったため、実施するか協議したい旨説明。

—協議の結果—

・注文は任意であるため、冬季も実施する。

・イトメンの売上をどのように活用したか、各ブロック連絡調整会議等で情報収集し、好事例として次年度の実施を考えていきたい。

6 その他

7 閉 会

